

2023年10月26日合同会見 所感

- 本日は、福田から原子力・立地本部の事務所の建設についてご説明させていただきます。
- お手元の資料の1ページ目をご覧ください。
- これまで柏崎刈羽原子力発電所に必要な本社機能に関して、新たな事務所を設置することをお伝えしておりましたが、この度、現在の柏崎エネルギーホールの敷地に建設することといたしました。
- この場所を選定した理由として、主に2点あります。
- 1点目は、発電所に近く、東京本社と新たに建設する事務所間を移動する社員の利便性です。本社社員が発電所近傍で執務することにより、発電所のリスクや現場実態を原子力部門全体で迅速に把握ができ、発電所と本社が一体となった現場重視の事業運営ができるという本社移転の目的に合致した場所となります。
- 2点目は、エネルギーホールは1984年11月に開館して以来、サークル活動やピアノ発表会など、長年地域の皆さまにご愛用いただいていた場所であるという点です。

資料の右下にあるように、新しい事務所については、1階部分を現在のエネルギーホールと同様の地域共生施設として、地域の皆さまにご利用いただく予定です。
- 本社社員にとっても地域の皆さまの声に直接触れる機会を増やし、その声を発電所運営に活かすことで、地域の皆さまから信頼される原子力部門・発電所を目指してまいります。

- なお、事務所としては2階から4階を主に使用いたします。
2階は災害対応時に緊急時対策室として使用でき、通常時は訓練や研修等に利用するフロアとし、3階と4階をオフィスとして利用する予定です。
- 工期につきましては、2024年5月よりエネルギーホール解体工事を始め、事務所の竣工は2026年度中を予定しております。
- 工事に伴いまして、エネルギーホールについては2024年4月24日から事務所の竣工まで、休館とさせていただきます。工事に伴い地域の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解を賜りますと幸いです。
- 本社員がしっかりと現場に寄り添い、現場重視の事業運営を行うことで、柏崎刈羽原子力発電所が地域の皆さまから愛され、信頼される発電所となれるよう、私自身も尽力してまいります。
- 私からは以上です。
- 発電所長の稲垣です。
- 昨日、5号機の使用済燃料プールにおいて金属製の物質を確認した事をお知らせしております。
燃料に直接的な影響はないものと判断しておりますが、今後、回収した物質の詳細確認を行うとともに、使用済燃料プール内に混入した原因を調査し、再発防止対策を講じてまいります。

- 続きまして、明日 27 日より行われる、原子力総合防災訓練に関してお話をさせていただきます。
- 今回の原子力総合防災訓練は国、自治体、事業者等の連携や、住民の皆さまの避難等が中心となります。発電所においても、万が一の災害時には、災害復旧に努めるだけでなく、迅速かつ正確に情報をお伝えする必要があります。
- 訓練では当所 7 号機が地震により自動停止し、炉心冷却機能が喪失したのち、炉心損傷に至り、放射性物質が放出されるという想定で行われますので、正確な情報提供が行えるよう取り組んでまいります。
- また、オフサイトでの訓練については新潟本部の社員を中心に、東京電力パワーグリッドや東京電力リニューアブルパワーカンパニーの社員なども含め、のべ約 360 名の社員が参加します。主には住民の皆さまの避難支援として、スクリーニングや簡易除染、避難経路所での車両の誘導などを行う予定です。
- 引き続き、万が一の事故の際に備えて、発電所内における緊急時対応はもちろんのこと、住民の皆さまのスムーズな避難に資するための支援活動にも、全社を挙げて取り組んでまいります。
- 私からは以上です。